

琉球大学学術リポジトリ

沖縄返還請求権全般

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): 補償要求, 沖縄住民対米請求問題, 在京米国大使館 キーワード (En): 作成者: - メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/43696

(4) 大蔵省前田審議官との協議 (昭和45年11月28日)



並本局

並本局

並本局

並本局

並本局

中

大蔵省前田善次郎の電報通信

の件

45.11.28 条の中

中

1. 28日下記2の用件に大蔵省前田

善次郎の電報の件 先より、27日綴

外務省における上原議員(記.中)の管内に

(補遺)

対外的に外務大臣官邸中議本問題につき

(大蔵省)

大臣が従事打合せの線まはみだした

の如き「当分の根拠」の旨、わが国に

(対米交渉)まじり、場合により果敢に

進取のめざすに「中野の」云々

の趣旨を述べられたことと推察は、この

先より、当分事務当局作成の資料
(従来のライブラリ)

を證明し、先は、今後委員

会においても大臣が「の趣旨を述べられた

おられた」とすれば「見不務多」とは

深い関心を持つべきで、この趣旨の

政府官邸に prevail する見込みなら、

むしろ「おのれに交渉する」とのライ

ビデに「要する」とか、既に

大蔵省と協議中の議本問題(記.中)

方針の根拠(対米交渉上)を強くし

という事は急内得し難いという事が大体
の意向で、Cにまともな事は言えぬ
なまなまの事なることを伝え、何か妥協の
案にないか、~~また~~いざいざ、C以外の回答
にそのことを含んでほしいとの意があった。
当方より、~~毎朝~~我々の意向を押し返し、
自分限りで今何ともし難い上りことを
知らせたい。殊に一応米俵に押し出す
という意味のBにそのことを上司に言っても、
米俵回答の旨を伝えるに下り、^{外有御文針に下り}さらにはラフサウ
その他、Variation of fall back position

として要求される可視性があるならば
~~難~~なる以上には押し出すわけにゆかない。
30日の
左連へは、^{30日の}現に大蔵内部の
協談には、AからCに至るまでの(ラフサウ
を含む)4つの案と資料として準備し、
よびつぎ新談に意を考えている
ので、かかる Variation の可視性もつきに
昨より言連へ、結局右協談の結果を
みておられたいと連へしと連へた。当方より
特におおまかに連絡ありとあればお伝え
する
可なりと連へておいた。

3. 前記合議の際、是より譲渡あり

人身補償のBにつき、これは相当の向き

をBと了解によいかを由らぬので、事務^的

は、^{請求}当事者の瑕疵の由題あり米俤り

法的事由に於て要件をなし案件と考之

ならず、^(はた)人道的配慮と新の性徳との

故、「前向き」といふのが趣旨なり

「前向き」「一応」といふ抽象的福残

を以て意味なく、米俤り出し後の進退

は、^{により實際に解決せしむべし}両省協議~~が~~と

述べらるる、是より楚意を露しぬ。